



人権だより



2013年度 第8号

発行所：大分県立日田林工高等学校

発行責任者：校長 生田 茂



ほけん じんけんこうわ おこな 保健・人権講話が行われました。



11月19日3～4限に本校体育館で、全校生徒と全職員対象に、大分市の徳田靖之弁護士による講話が行われました。内容は「エイズと人権について」です。限られた時間の中、徳田弁護士はエイズ裁判に関わった経緯や内容だけでなく、エイズの正式名称や感染経路についてもお話していただきました。特に、血友病患者に広まった経緯や感染した人と同年代の子どもたちの話では、血友病の子どもも持った親の苦労や血友病を治療しようとして使った血液製剤によるエイズ感染の実態・その血液製剤を使って感染させてしまった親の苦悩など、胸の痛くなる内容でした。生徒の皆さんと同年代の3人の患者の話は、本当に身近にエイズの問題を考えなくてはならないこと、エイズに感染したことによる偏見や差別の話は、正しい知識を学ぶことが大切なことを訴えるものでした。

その中で、エイズに罹った友だちを受け入れた友だちの話は、エイズ患者を孤立させず、周りの支えが大切なことを理解する内容でした。また、エイズ患者の結婚では、自分がエイズ感染者であることを告げられず別れなければなかったこと、その後知り合った人に打ち明け、理解してもらえ結婚したことなど、現在の私たちが考え行動しなくてはならない内容でした。なお、講話後生徒の全員に感想文を書いてもらいましたが、感想文は保健だよりの中でお知らせしたいと思います。

裏に掲載した2年生の人権H R Aの感想文の中に、講話についてのものがありましたので掲載します。



先日の講話を聞いたときに、「自分はエイズだ。」と言ってくる友だちに「そんなの関係ない。」と言った友だち同士の話があったけど、それが自分だったら「そんなの関係ない。」と今は言えるけど、これから本当にあったとしたら、自信を持ってそう言えるか、自信がないので心配です。これから社会に出ている人々と出会う中で、エイズに罹っている人がいて、自分に思い切って打ち明けてくれる人がいたら、自分は自信を持って「関係ない。」と言え、心が強い人になって行きたいと思いました。差別が完全に無くなることは不可能かもしれないけれど、差別がこの世からどんどん減ってくれたらいいな、と思いました。(M科)



私たちは、身の回りの様々な人権問題に関して、正しい知識と行動する勇気を持つことが大切です。そのためにしっかりと学習を積み重ねましょう。



あなたの周りに悩みや苦しみを打ち明けられず苦しんでいる人、困っている人などはいませんか。いたら声をかけてみましょう。



おんせいじんけんぼーむるーむかつどう かんそう
 こんげつ てーま 今月のテーマは「2年生人権HRAの感想」です。

がつ にち げつようび げん じっし ないよう ぶらくもんだい
 11月25日(月)1限に2年生で人権HRAが実施されました。内容は「部落問題」です。
 かんそうぶん けいさい じかん かんけい じかん がっき つつ おこな よてい
 その感想文を掲載します。時間の関係で1時間でしたが、3学期にこの続きを行う予定です。

ぶらくさべつ おや こ つた いま のこ りかい
 部落差別は、親から子に伝わって今まで残っていることが理解できた。その部落
 差別という差別のせいで願いが叶わなかったりするのはとても辛いことだと思
 った。差別反対と叫んでも差別している人の心は変わりにくいと思う。それでも
 差別に反対している声がないと、差別は絶対に無くならないと思うから、反対し
 ている意思表示は忘れてはいけないと思った。(F科)



ぶらくさべつ おや こ つた いま のこ りかい
 部落差別は、人の幸せな未来を壊していくものだと思います。何の悪いこと
 もしていないのに、住む所などが違うだけで、差別をされるのはおかしいと思
 うし、やってはいけない事だと思います。何の根拠もない、ごく普通に暮ら
 していた人がいきなり差別をされたら、たまったものではないと思います。差
 別とは、その人の未来を許さないとやっていることと同じような事だと私は思
 います。こんな事は無くしていくべきだし、何より、人と人が理解し合わなければならないと思います。
 そして、差別に対する『意識』というのを変えなければならないと思います。(E科)



ぶらくさべつ おや こ つた いま のこ りかい
 部落差別などの偏見などが何の根拠もないということも改めてよくわかりま
 した。部落差別やいじめが問題で就職できないこともあるので、そんなこと
 はやっても誰も得にはならないから、やっぱりあってはいけないことだと思
 うし、やるのもいけないと思いました。自分がその立場になって、もし就職でき
 なかったりしたら、誰だって嫌だと思います。部落差別もそうだけど、偏見・
 いじめなどで、そういった誰も得をしないことが、少しでも早く無くなってほ
 しいです。本人は、何も考えずしていると思うけど、そのせいで、就職できなかったり、生活に困窮し
 ている人が今も多くいると思います。一人一人が偏見を持たずに生活していれば、困難な思いをして生活
 する人も減ると思います。そんな苦勞する人が少しでも減ってほしいです。(A科)



ぶらくさべつ おや こ つた いま のこ りかい
 今日の部落差別の学習をしてみて今まで考えていた部落差別のイメージとは
 全く異なるものでした。学習をして思ったことは、今とても問題となってい
 るいじめ問題と似ているのではないかと思いました。今のいじめの原因として
 は、身長が低い・高いや部活動の上手下手などのとても小さい事からいじめ
 が始まる場合があります。部落差別にしてもそうだと思います。「死者の送葬
 動物の死骸処理・清掃、庭園造り、警備・刑の執行、様々な芸能」など誰かが絶対にしなくてはならない
 事を人に押しつけて差別するなんてとんでもない、と思いました。今現在でも産まれた家を気にするなど
 あるけど、結婚や仕事などは本人の自由にさせればいいのにならなくても親や周りの目を気にして生きて行
 くなんて自分は絶対に嫌だな、と思いました。もし、将来そんな場面に出くわしたら他人の意見を聞き
 つつ自分の意見を言って、物事を考えたいな、と今日学習をして改めて思いました。これからの将来の
 子どもたちが部落差別を知らないと言える社会が来たら、自分は日本に本当の幸せが来ると考えていま
 す。(C科)



2年生のみなさん、ありがとうございました。

